



平成29年 2月14日発行

第 103 号

事務局 〒169-0051 東京都新宿区
西早稲田2-18-23スカイエスタ507
TEL/FAX 03-6457-3921
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp
<http://www.seishineisei.gr.jp/>

〈目 次〉

- 第32回日本精神衛生学会大会のお礼…………… 1
- メンタルヘルス関連3学会合同大会の印象記…………… 2
- 日本精神衛生学会第32回大会に参加して…………… 3

第 32 回日本精神衛生学会大会のお礼

東京農工大学大学教育センター 馬淵麻由子

第32回大会は平成28年12月9日～11日、東京の一橋大学一橋講堂で開催されました。全国大学メンタルヘルス学会（第38回総会）、日本学校メンタルヘルス学会（第20回大会）との合同大会という初めての試みでしたが、500名を越える方々にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。またご参加いただけなかった皆さまにも大会のご紹介等お力をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

大会テーマは大会長の牛島定信先生より「21世紀」というキーワードをご提案いただき、『21世紀のメンタルヘルス』としました。一般研究発表のほか、3つの合同企画、5つのシンポジウム、そして無料公開シンポジウムが行われました。特に一般研究発表（ポスター発表）には19演題ものエントリーをいただき、ポスター発表会場は大変な熱気に包まれました。企画は少々盛りだくさんではございましたが、多くの参加者にご満足いただけたのであれば嬉しく存じます。

初めての合同大会でしたので会員の皆様には戸惑いやご不便をおかけしたと存じます。しかしながら、「分断」や「解散」という言葉を多く耳にした2016年に、ひとところに集まり共にメンタルヘルスについて考え、意見を交わすことができたことに大きな意味があったのではないかと、あらためて強く感じている次第です。

第32回大会が、会員の皆さまの様々なつながりを豊かにするものであったならば幸いです。どうもありがとうございました。

メンタルヘルス関連三学会合同大会の印象記

辻 麗子（関西学院大学 学生支援相談室）

メンタルヘルス関連三学会合同大会は、平成 28 年 12 月 9 日(金)～11 日(日)の 3 日間、「21 世紀のリアルーメンタルヘルスの目指すものー」をメインテーマに一橋大学一橋講堂にて開催されました。3 学会合同という企画自体がコラボラティブで、参加者も医療・福祉・教育・心理など多岐に渡っており、講演・シンポジウム・研究発表など盛りだくさんでした。魅力的な講演やシンポジウムばかりで、そのすべてについて触れられないのが残念です。また私自身は、学校メンタルヘルス学会員であるにもかかわらず、この度このようなご機会を頂戴いたしましたことに、事務局の先生方の懐の広さや協働性を感じずにはいられませんでした。

1 日目は、早川先生が「メンタルヘルス、これまでとこれから」というテーマでご講演され、先生らしい語りにも満ちており、日本におけるメンタルヘルスのパイオニアのヒューマンライブラリーを体験しているかのようでした。

2 日目の合同シンポジウムは、斎藤環先生、宮台真司先生、上田紀行先生による「オープンダイアログー精神医学、社会学、文化人類学のクロストークー」が行われ、会場はいっぱい、参加者の期待に満ちておりました。成果主義・効率主義重視の現代日本社会をどう生き抜いていくかについて、オープンダイアログ、AI 化、ナンパ、逃げ場など様々なキーワードにあふれたテンションの高い議論が展開されました。

3 日目の高塚先生コーディネートのシンポジウム「生きることに困難さを抱える若者たちをどう支援するか」など、全 3 日間を通して私が感じたことは、つながることの持つ力です。人と出会い、つながっていく力、そのつながりを維持する力、そしてしんどくなったら別のつながりに「逃げ場」を確保すること。オープンダイアログが統合失調症の方たちに非常に高い治療効果があるように、私たちは話すことによって、そして話すことを保障されることによって、居場所ができ所属感ができます。所属感があるからこそ、そのコミュニティに貢献したいと思え、有機的な支援の輪が連なっていくのだと思います。さらにそのコミュニティがひとつではなく、いくつかあることで私たちはいろいろな自分でいられることができます。私たち専門家がそのようなコミュニティをどう提供できるかを考えると同時に、このような学会という場で多くの知見や人との出会いがあり、つながっていけることが、21 世紀のリアルを生きる自分自身をエンパワーする体験となりました。

最後に、いつも最前列でご聴講されていた牛島先生、懇親会でのサンバに一番嬉しそうに踊っていらした早川先生と上田先生の笑顔を拝見して、いつまでも自ら学ぶ姿勢を絶やさないことや何に対してもオープンマインドでいる強さなどを学びました。事務局の先生方をはじめとして、私などには想像にも及ばないくらいのご尽力があったからこそ、このような大盛況で充実した大会となったのだと思います。本当にありがとうございました。

日本精神衛生学会 第 32 回大会に参加して

高橋恵一（公立学校スクールカウンセラー）

平成 28 年 12 月 9 日から 11 日、一橋講堂を会場として、牛島定信先生を会長に、日本精神衛生学会第 32 回大会が開催されました。本大会は、全国大学メンタルヘルス学会と日本学校メンタルヘルス学会によるメンタルヘルス関連三学会合同大会でした。合同シンポジウムや合同企画も開催され、多くの参加者が集いました。

私が印象的だったのは、合同シンポジウムⅡ「オープンダイアログ 精神医学、社会学、文化人類学のクロストーク」でした。斎藤環先生、宮台真司先生、上田紀行先生の三者による鼎談が、早川東作先生と安宅勝弘先生の司会によって進められました。台本無しで始まったトークは、オープンダイアログだけではなく、人工知能や若者の恋愛感など、幅広い話題に展開し、客席の関心を引き付けながら、徐々にやりとりが熱を帯びていく、ライブ感に溢れるシンポジウムでした。上田先生が、議論するグループを大学キャンパス内に作り、他の学生にも影響を伝え合う関係作りについて話されていましたが、まさに見ている私たちが、知の最前線に立つ三人の先生の議論を味わい、影響を受ける貴重な体験ができたように思います。

合同企画「不登校へのアプローチ」では、中村伸一先生が出演する初回面接の映像が用いられました。リアルタイムで進むクライアント・センタード・システムック・アプローチによる面接の言葉や介入に対して、私たちが抱く疑問や関心をすくい取るように、中村先生が解説されていたのが印象的でした。普段の臨床場面を思い起こさせるような父親役、母親役の方の言動には、会場から思わず小さな笑い声がもれる様子も見られました。

合同懇親会では、各学会による表彰式や次回大会の紹介なども行われ、お互いの学会活動を知る機会となりました。学生によるサンバダンスも披露され、学会の垣根を越える思い出になったのではないのでしょうか。三学会のそれぞれの歴史が交わり、今後のさらなる発展と交流が期待される大会となったと思われま

